ＪＲ東海労ニュース

№1948
2014年7月16日
ＪＲ東海労働組合

オスプレイ飛行に断固抗議する！

米軍普天間飛行場配備の垂直離着陸輸送機オスプレイＭＶ22が７月15日、同飛行場から神奈川県の厚木基地を経て、キャンプ富士（静岡県御殿場市）まで飛行しました。私たちは断固抗議します。

今回のオスプレイ飛行の目的は人員輸送としていますが、人員を輸送するためなら普通のヘリや飛行機で十分です。どう見ても、飛行訓練を兼ねた何らかな意図があってもおかしくはありません。現在国会（参議院予算委員会）では、集団的自衛権の議論がされています。その中でのオスプレイ飛行は挑発行為とも受け止めることができます。

言うまでもなく、安倍政権は「戦争のできる国」づくりのための施策を強引かつ傲慢に推し進めています。自衛隊にもオスプレイ配備が計画されています。やがては、日本全国にオスプレイを配備し、日本国中いや、世界中を飛び回ることが画策されているのではないでしょうか。

オスプレイは戦争のための道具です。ＪＲ東海労は、一切の戦争政策に反対し、反戦・平和の闘いを断固推し進めていきます。

オスプレイ県内初飛来

人口密集地避ける
キャンプ富士 適性確認へ

住宅街上空をかすめキャンプ富士に向かうオスプレイ（15日午後4時40分、御殿場市（本社ヘリ「ジェリコー号」から）

米海兵隊の新型輸送機MV22オスプレイ1機が15日午後4時50分ごろ、御殿場市の米海兵隊基地キャンプ富士に着陸した。県内への飛来は初めて。開発段階の事故などから安全性が懸念されたが、機体は人口密集地を避けて飛行し、大きなトラブルも無く到着した。＝関連記事3、26、27面へ

飛行ルールの違反が無いかを確認するため、着陸時に基地内の管制塔で飛来を視察した若林洋平市長は記者団の質問に対し、「十分な確認が必要だが、目視した限り、違反とみられる飛行はなかった」と述べた。若林市長は、同基地のジェームス・フルウッド司令官が飛行目的について、「滑走路の耐性や視認性など、キャンプ富士でオスプレイが安全に使用できるかを確認する意味もあった」などと説明したことも明かした。

同基地の適性が確認されれば、飛来が常態化する可能性もある。

オスプレイは同日正午ごろ、配備先の普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）を離陸、厚木飛行場（神奈川県）での給油を経て、約5時間後、同基地の北東にある小山町須走方面から垂直離着陸モード（ヘリモード）の機体が姿を現し、滑走路に進入した。

関係者によると、御殿場、小山岡市町の人口密集地が少ない山間部が飛行目的で、「現段階で調査結果を公表するつもりはない」と話した。

同市は独自に市役所本庁舎で騒音測定を行ったが大きな音は感知されなかった。現地で飛行調査を行ったとみられる防衛省南関東防衛局の広報担当者は

岡局によると、今回の飛行は人員輸送が目的で18日に普天間飛行場に戻る計画とされている。16日は地元代表者が見学する予定。

ほかにも2機が19日、給油のため東京都の横田基地を経由し、20日に札幌市である航空イベントに参加する予定。

2014年７月16日『静岡新聞』

オスプレイ配備拡大と軍事強化を許さないぞ！